

# 穂学



令和4年度

広州日本人学校 学校便り

[No.7]

令和4年7月15日(金)

発行責任者 校長 加藤康徳

## その昔、「頭がキレル」は誉め言葉でした！

立場上、日本から広州に仕事で赴任されている方々と様々な行事や会議でお会いすることが日本にいる時よりも増えました。経済の専門家ではない私は、「経済や企業経営」の専門家、しかも各企業のエース級の方々から、教育界とは違う「ものの見方・考え方」に触れることができ大変勉強になります。中国国内のコロナ感染状況を把握するために購読している「中国の経済紙（中国総合誌：日本語）」も、最近はコロナ関連の記事だけではなく経済面に目を通すのが日課となり、「R&D」「SMEDI」「CPI」などの経済用語も覚えました。

また、各種会議の中では「コミュニケーション能力」についてのスキルも教えてもらうことも多いです。数字などの根拠に基づく思考力・判断力、相手の意見も聞きながら自分の意見もしっかりと述べる「自己表現力」など、自分には足りない力がはっきりと見えてくるのが校長という肩書では少し稚拙に思われるかもしれませんが、「楽しい」です。そして、もっと上手にコミュニケーションを取りながら論理的に話ができるようになりたいです。

きっと上記のような方々が「本当に頭がキレル人」と言えるのではないのでしょうか。と、ここでふと迷ったことは、「頭がキレル」という言葉は誉め言葉だったかどうかということです。（私は自然に出てくる使い方ですが）

そこで、おおよその年代ごとに「頭がキレル」という言葉の印象を「良い意味でとるか、悪い意味でとるか」の2択で聞いたところ、20代は～40代は「悪い意味」にとり、やっと50代の方から「誉め言葉で使っていたことは知っている。」という結果となりました。

ちなみに校長室にある国語辞典には、「切れる：(用例) 頭が切れる。＝頭の回転が早い人という意味」としか載っていません。これは、おそらく、1990年ぐらいからマンガが広く子ども達の間で読まれることが多くなったからだとは思っています。（※怒ると頭の血管が切れるような表現がマンガの中に描かれていたような気がします。）

「誉め言葉が、何かの影響で逆の意味に変化することがある。」

これからは間違っても「あなたは頭がキレますね。」という使い方をして、誤解を招かないように気を付けようと思っています。

先の年代別の聞き取り結果からして、「頭がキレル」はもう誉め言葉として認知されることはないかもしれませんが、幼いころは「頭がキレル大人になること」をめざしていた者にとっては少し寂しい感じがしました。これからは頭がキレル大人にはなれなかったことを反省し、せめて頭がキレル大人にはならないように気を付けることにします。



＜学校経営のスローガン＞  
**「つながり」を「未来に実感」させる**  
**広州日本人学校の創造**

＜大切にしている5つのつながり＞

- ①先生とのつながり
- ②授業とのつながり
- ③友だちとのつながり
- ④保護者・日本人社会とのつながり
- ⑤中国とのつながり



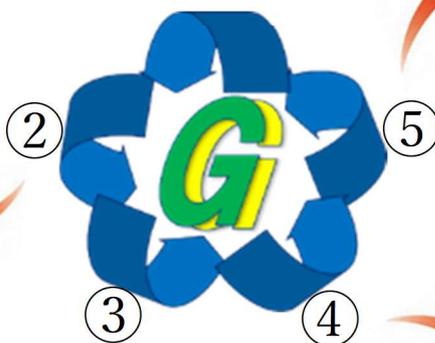
6月24日（金）に越州区にある広州市教育局を訪問し、新型コロナウイルス感染拡大防止対応の確認と学校側の要望についての話し合いを行いました。

＜研究授業＞

広州日本人学校では「学力向上部」を中心として計画的に研究授業を実施し、日頃から授業力の向上に取り組んでいます。



＜村岡先生：中3理科＞



＜音楽発表会＞

7月8日（金）は音楽発表会の児童生徒鑑賞日でした。当日は広州日本商工会会長の小泉様をはじめとする来賓の方々にも子ども達の歌声を聞いていただきました。来賓の皆様からは「子どもたちの歌声から元気もらいました。」などの感想を頂きました。残念ながら翌日の保護者鑑賞日は中止になりましたが、7月22日よりロイロノートに各学年の発表を動画でアップします。保護者の皆様はぜひ動画でご鑑賞して頂き、子ども達の爽やかな歌声をお楽しみください。よろしくお願いいたします。



＜5年総合的な学習＞

7月13日（水）の5時間目に広州・深圳スシロー理事総経理 松田一成様を講師に迎え、スシローが海外展開するに当たっての工夫や苦勞、仕事のやりがいについての話を聞かせて頂きました。

※講演後、子ども達は記念ストラップ頂きました。ありがとうございました。

「半旗を掲揚しました。」

7月8日（金）午前11半頃、日本において元日本国内閣総理大臣 安倍晋三様が凶弾に倒れご逝去されました。

本校では安倍元総理への哀悼の意を示すために7月11日・12日の両日に、国旗を半旗にしてグラウンドの掲揚塔に掲揚をいたしました。謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。

